

TPiCSレポート

「TPiCSニュース」、今回は第3号になります。
業界の動きも何かと活発になり、私どもも毎日右往左往
しております。

1. 貸出制度を設けました。

TPiCSの優れた機能を広く知って頂く為、次の要領
でTPiCS-II学習用システムをお貸出することに致
しました。

a. 貴社の会社案内・概要等、及び製品のカタログ・パ
ンフレット等をお送り下さい。

b. 上記aと同時に申込用紙に必要事項をご記入の上、
お送り下さい。両方到着後、内容確認の上、発送致しま
した。

c. 貸出期間は、原則1週間と致します。

貸出品の損傷を防ぐ為にも、システムはユーザーご自身
が複写したものをお使い下さい。複写品は本品返却後も
使用可能です。

d. 返却時の送料は、ユーザー様にご負担願います。

e. 返却時と、更に1~2ヶ月後、アンケートにご協力
をお願い致します。

f. 貸出中の事故・大きな損傷・紛失の場合は、実費を
申し受けます。

g. 貸出システムをご使用中の質問は、マニュアル等に
記載されていない事項と市販の本などでわかる内容以外
に限定させて頂きます。

生産管理上の質問は、どしどしお寄せ頂きたいと思いま
す。

TPiCSをまだ1度もご覧になったことのない方は、
是非お申し込み下さい。

2. 機能強化について

●進捗管理の表示方法で、遅れの基準値を指定し、基準
以上の遅延だけ表示するようにしました。

従来は、「全型式の表示」「(僅かな遅れでも)遅延のある
もの全ての表示」の2通りでしたが、今回の改訂で大き
な遅れの型式だけを表示することもできるようになりま
した。

●立ち上げ時に稼働環境を直接指定できるようにしまし
た。

TPiCSは、元来非常に自由度を高く設計してありま
すが、更に立ち上げ時に次の稼働環境を設定することに
より、自由度が飛躍的に向上致しました。

a. データファイルの置き場を一括して設定

b. コントロールファイルの置き場及びファイル名を随
時変更

c. フロッピーディスクベースで使用の際、No.2のシ
ステムディスクをどこに置くかの指定

これらの機能により、TPiCSはいかなるハードウェ
アの構成でも、稼働することができます。

また、マスター関係のデータは共用して、内示処理デー
タと確定計画データを分離して扱うこともできます。

3. TPiCS利用テクニック

TPiCSはパソコンのシステムでありながら、MRP
の専門用語で言いますと、「ループドMRP」であります。

つまり、狭義のMRPによる手配処理(資材所要量計画)
だけにとどまらず、在庫管理・実績管理・進捗管理・買
掛管理まで、一連の生産管理の業務をこなすシステムで
す。

扱う範囲が広くなると、それを使いこなすのも難しくな
ります。

操作方法が煩雑になる、などという低次元の問題ではな
く、社内社外の多くのセクション間の調整を計らなくて
はなりません。

誰が?いつ?何を(どのデータを)?どう(何を基準に
して)?どこへ(アウトプットを)?を決めなければ
なりません。

また、効率の良い管理をする為には、現場の工程まで組
み替える必要があるかもしれません。

MRPは、生産計画を中心に考えるシステムであります
から、そのもととなる販売計画の立て方、あるいは注文
の受注方法までも見直さなければならぬかもしれませ
ん。

それらの答が、システムから見ると全て”マスター”と
なってインプットされるわけです。

例えば、型式マスターの”生産部門”1つを例にとつて
みても、中小メーカーさんで、現場は”製造課”だけし
か設けていない場合でも、マシン・板金・管加工・組立

と明らかに工程が分かれている場合、会社としては職制が独立していなくても、工程毎の計画や、作業量・実績を管理する必要があるれば、マスターは分離して作成した方が良いはずです。

逆もまた真なりで、職制が分かれていても、作業上一貫生産でライン上を流れて行くような場合は、わざわざ分離する必要はありません。

また、現状は従来からの経緯でとか設備の都合とかで、工程が分断され、その工程間に在庫が滞留していても、なんらかの改善で1つの工程としてまとめることができることになれば、それは1つの工程として捉えることができます。

これはTP i C Sを使う上だけの話ではなく、

①滞留が少なくなる

②管理ポイントを少なくする

という意味で、生産管理の鉄則です。

私ども開発元と致しましては、使い易いシステムを開発していくのは当然であり、このTP i C Sは機能面でも非常に柔軟な思想を背景にしておりますがゆえ、多くの製造メーカーさんで適用できるものであります。

むしろ、問題は上述のようなポイントをどこまでサポートできるかにかかってくるものと思ひ、覚悟を新たにしております。